



- ①話題の新刊や目を引く表紙などが「読んでみたくなる」ように並べられている学校図書。
- ②世の中にはどのような職業があるのか。自分の将来像を描く手助けになる。
- ③ジュニア大使派遣事業。若いうちから国際感覚を身につけることは、「日本」「ふるさと」を見つめ直す良いきっかけとなる。
- ④むつ市中学生夢はくむ体験入学事業にて中学生が大学の授業を体験。むつ市の未来を担う人材の育成につながる。

田名部中学校の図書室に導入される学校図書は、生徒からのリクエスト、図書委員の選考、先生方のお薦めの図書などを考慮して購入され、生徒のみならずは昼休み他、毎日午前8時5分から10

分間の「オアシスタイム」で積極的に読書を行っています。「読書量は当然学力に良い影響を与えますし、また、物事をじっくり考える良いきっかけになります。最近ではインターネットやSNSで常に誰かとつながっている時代ですが、読書は一人になれる時間。自分を見つめ直すことができます。数少ない時間になっていると思います。」と話すのは、田名部中学校の図書委員会を担当する沖田教諭。

多くの知識や、豊かな人格形成に読書が役立つことは、今も昔も変わりません。

読書から始まる「ひびく」。

充実した取組みを後押し

例えば、学校図書。昨年度小・中学校への図書の導入は市内22校で1103冊。およそ167万円の費用を要するこの事業は、そのほぼ全額がふるさと納税の恩恵を受けています。

読書から始まる「ひびく」。

子どもたちにたくさん本を読める環境を作ってあげたいという教育現場の願いが、ふるさと納税で叶えられています。



- ⑤むつ市自主防災組織設立助成事業は、地域の結束を高め、安心して暮らせるむつ市へつながる。
- ⑥街路灯が常に明るく管理され、事件事故、犯罪の手から子どもやお年寄りを守る。

その思いが  
まちのために  
役立っています



いただいたふるさと納税は、納税者のご意向に基づいて「下北ジオパークを盛り上げるため」「安心して暮らせるまちづくりのため」「子どもたちの未来のため」「産業の活性化のため」という、大きく4つの分野で役立てられています。これらは、市として元々取り組んできた事業ですが、ふるさと納税制度の導入により、より厚みを持たせた取組として実施できるようになりました。

ふるさと納税が活用される主な事業

(平成29年度当初予算)

下北ジオパークを盛り上げる

- 下北ジオパーク推進事業
- 下北ジオパーク夢実現プログラム
- ジオパーク体験活動推進事業

安心して暮らせるまちづくり

- 青少年健全育成事業
- 交通安全事業
- 緊急通報体制等整備事業
- 街路灯管理費
- むつ市自主防災組織設立助成事業
- 災害時用備蓄品購入

子どもたちの未来

- 学力向上推進事業
- ジュニア大使派遣事業
- むつ市子ども夢育成基金
- 新聞を活用した学習への支援事業
- ICTを活用した特別支援教育研究事業
- 小・中学校教育振興費
- 青少年教育事業費(各公民館)
- 図書購入費
- 補助金(少年スポーツ育成事業)

産業の活性化

- 栽培漁業総合振興対策事業
- サクラマス等各種稚魚放流事業
- ホタテ貝殻を活用したナマコ増殖場造成事業
- 海づり公園施設補修事業
- 起業家ワンストップ支援事業
- 北の防人大湊観光交流事業
- 「夢の平成号」及び鯛島利活用整備事業
- 「むつ市のうまいは日本一」推進プロジェクト事業
- べこもち&デコもちプロモーション事業
- 北のプレミアムフード館新規出店事業

東京駅午前9時8分発のはやぶさ9号に乗る。下北駅に着くと時計の針は午後2時を指していた。遠いまちだけど、ここは私のふるさと。私を育ててくれたふるさとだ。このまちがあるから、私がいる。

あるべき姿をふりかえる

多くの国民が、地方のふるさとで生まれ、教育を受け、育ち、進学や就職を機に都会に出て、そこで納税するようになる。都会のまちは税収を得るが、彼らを育んだ「ふるさと」に税収はない。今は都会に住んでいても、自分を育んでくれたふるさとに、自分の意思で、いくらでも納税できる制度があっても良いのではないか。(総務省HP) そんな問題提起からふるさと納税は始まりました。

高価な返礼品に沸き、お得に地方の産品を楽しめる制度であることが話題を呼ぶ今、ふるさと納税が地方にもたらす本当の姿をふりかえります。

今号の広報むつが、この夏ふるさとむつ市へお帰りのみなさまにご覧いただけることを願っています。

特集 ふるさとへつながる線路

